

植物
防疫
講座

虫害編-4

セジロウンカ、トビロウンカの
発生生態と防除

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 **まつ** **むら** **まさ** **や**
九州沖縄農業研究センター生産環境研究領域 **松** **村** **正** **哉**

はじめに

セジロウンカ *Sogatella furcifera*, トビロウンカ *Nilaparvata lugens*, ヒメトビウンカ *Laodelphax striatellus* はカメムシ目ウンカ科の昆虫で、古くからイネの重要害虫として知られている。この3種は一括してイネウンカ類と呼ばれることが多いが、その生態や防除対策は種ごとに異なる点も多い。本稿ではセジロウンカとトビロウンカの発生生態の特徴と防除対策を解説する。

I 形態と種の識別法

セジロウンカの成虫の体長は約4.5mmで、翅のほとんどの部分が透明で、背中に白い模様がある(図-1)。雌成虫はヒメトビウンカとよく似ているが、ヒメトビウンカに比べて頭胸部がややとがっていること、顔面の2本の条溝がセジロウンカでは淡褐色、ヒメトビウンカでは黒色であることで識別できる(図-2)。セジロウンカ属(*Sogatella*)の近縁種にはヒエウンカ *Sogatella vibix* とセジロウンカモドキ *Sogatella kolophon* がいるが、こ

れらの識別については市田(1996)を参照する。

トビロウンカの成虫の体長は約5mmで、体と翅の色は褐色である。雄は雌よりも一回り小さい(図-1)。予察灯などのサンプルには近縁種が混じることがあるが、トビロウンカ属(*Nilaparvata*)かどうかをまず見分けるには、後脚の跗節に小さな棘が数本生えているかどうかを実体顕微鏡で確認する(図-3)。この棘がトビ



図-1 セジロウンカとトビロウンカの成虫と幼虫

Ecology and Management of the Whitebacked Planthopper, *Sogatella furcifera* and the Brown Planthopper, *Nilaparvata lugens*.
By Masaya MATSUMURA

(キーワード: 水稻害虫, 長距離移動性害虫, 飛来予測, 発生予察)

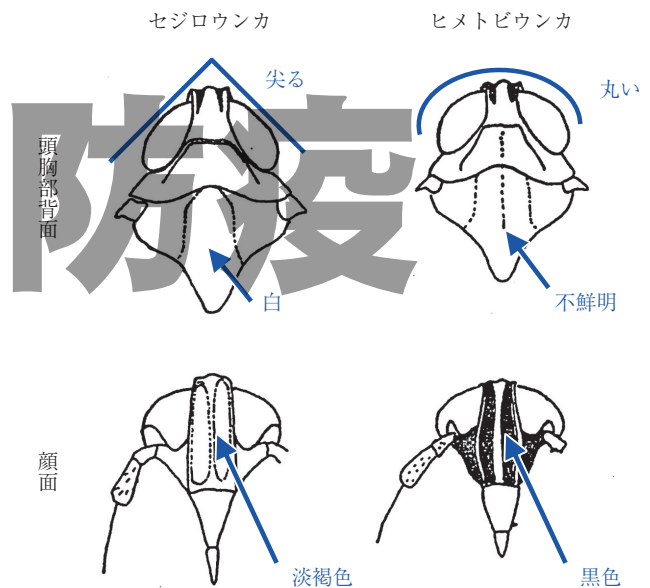


図-2 セジロウンカとヒメトビウンカの頭部形態(岸本, 1974)

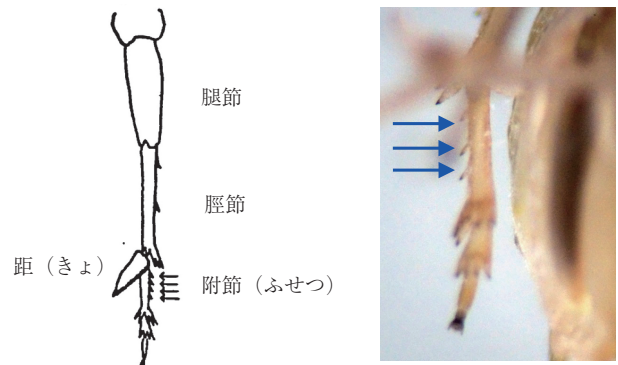


図-3 トビロウンカ属(*Nilaparvata*)の後脚の跗節に特徴的に見られる小さな棘(左図は岸本, 1974)